

令和3年度鹿児島県特別支援学校技能検定を開催しました

令和3年12月から翌年1月に掛けて、鹿児島盲学校、中種子養護学校、大島養護学校の3会場で特別支援学校技能検定を開催し、清掃部門、喫茶サービス部門のチャレンジコース（中級）、プロフェッショナルコース（上級）に85人の高等部生徒が受検しました。両部門のビギナーコース（初級）は各在籍校で実施され、全ての受検者数を合わせると、これまでに最も多い286人の生徒が参加しました。

1 鹿児島盲学校会場での様子

12月27日に、57人の生徒が約150人の参観者に見守られながら検定に挑戦しました。生徒は、いつもとは異なる雰囲気にも緊張しながらも、これまで積み重ねてきた練習の成果を発揮し、目標とする級位の認定を受けられるよう一生懸命頑張っていました。参観された保護者からは、「緊張感があり、子供にとってよい経験になりました。」「取り組んでいる姿を見て、いろいろなことにチャレンジすることは大切だと思いました。」などのコメントをたくさんいただきました。



2 離島での取組の様子

大島養護学校では、9人の生徒が参加しました。検定終了後には、喫茶部門において生徒・職員向けの講習会も行われました。初めて講習会に参加した生徒からは、「普段、あまり意識していないことを教えてもらえて、すごく勉強になりました。来年に向けて練習を頑張りたい。」などの感想が聞かれました。また、日頃、生徒の指導に当たっている職員からも、初めて見るプロの技に「子供たちと練習する際のポイントが分かってとても参考になった。」との言葉が聞かれました。中種子養護学校では、屋久島支援教室の生徒も参加し、清掃部門の検定に加えて、初めて喫茶サービス部門の検定を開催しました。こちらの会場でも、検定後に県ビルメンテナンス協会の審査員による実技指導が行われ、生徒の皆さんは熱心に審査員の話聞いていました。



離島における技能検定も、年々充実してきており、県教育委員会としては、今後も生徒の皆さんの就労意欲の向上に向けて、学校や関係機関、企業関係者等と協力しながら、更に取組を進めていきたいと思っております。